

不通則痛と不栄則痛

東京慈恵会医科大学 総合診療部 漢方外来 **古賀 実芳**

漢方治療には得意分野がいくつもありますが、そのひとつとして婦人科領域があります。実際、漢方専門外来には、月経に伴う痛みを訴える患者さんが多く受診されます。私の専門は婦人科ではありませんが、このような患者さんの「痛み」が漢方治療で緩和されるといのはよく経験することです。

西洋医学も漢方医学も“人の健康を目指す”という意味では同じ医学ですが、その違いは、西洋医学は組織ごとの病態分析を先行させるのに対し、漢方医学は局所所見から全身の病態を把握して治療を行うということにあります。

漢方医学は“バランスの医学”ともいわれます。漢方で考える健康な状態とは、エネルギー（気）や滋養物質（血・水）が心身の必要な部位に滞ることなく流通し、過不足なく供給されている状態をいいます。逆に、不健康な状態（心身の不調）は、流通の停滞や、供給過剰、栄養不足などによると考えますので、漢方治療ではこれら流通状態の是正や供給量の調節を行い、体内環境のバランスを取るようにします。これが漢方治療の根本です。

では、月経前症候群（PMS）や月経困難症の主症状のひとつである「痛み」をどのように捉えるのかというと、「不通則痛」、つまり気血水の流通が障害されると痛みが生じると考え、何が原因で流通障害が起こっているのかを痛みの種類や特徴などから診断します。痛みの原因が血瘀であると診断した場合には桂枝茯苓丸、気滞であると診断した場合には加味逍遙散というように原因にあった漢方薬を処方します（表）。

なかでも「不栄則痛」は、十分に栄養されないことによる痛みですから、いくら鎮痛剤を服用したところで効果はありません。月経期から月経後の下腹部痛や頭痛はこの栄養不足によるものが多く、当帰芍薬散や十全大補湯、人參養榮湯などを処方します（表）。また、このような場合には全身が虚している場合も多いので、構

成生薬にも着目し、補気作用のある白朮配合の方剤を薦めたいところです。

月経周期にあわせて貯蔵や排泄、流通を繰り返す体内での変化は、子宮という臓器だけではなく全身に及びます。また、漢方でいうところの肝は、気の巡りを調節し血を蓄える臓器で、女性の健康と深く関わっています。肝の機能がストレスなどで失調すると、抑鬱状態になったり、逆に興奮状態になりイライラして怒りっぽくなったりします。同時に、気の巡りも悪くなり、血の供給も低下し、痛みの増強を引き起こします。

このような「痛み」の悪循環を断ち切るには、ストレスフリーな生活を心がけるのが一番ですが、ストレスフルな生活環境の中に身を置かざるを得ない状況下では、身も心も歪んでアンバランスな状態になっていきます。

月経に関連した「痛み」の治療では、このようなストレスフルな生活環境も含め、患者さんの体力や性格、心の状態なども考え併せて診療を進めなければ十分な効果を得ることはできません。あらゆる角度から患者さんを診るという診療のスタイルは、まさに漢方診療の「病気を診ずして病人を診よ」という姿勢そのものであり、このようなことから、婦人科領域の疾患に漢方診療を取り入れる有用性は大きいと考えています。

患者さんの訴えに耳を傾け、歪んでしまった心身のバランスを整えることで、「痛み」から少しでも解放してあげたいと願いながら診療を行う日々です。

表：月経に関連した痛み用いる主な漢方薬

月経前の腹痛、身体痛 → 主に流通障害	
固定性、刺すような痛み	血瘀と考え桂枝茯苓丸など
移動性、脹痛、イライラ	気滞と考え加味逍遙散など
冷え症、牽引痛（腹部中心）	当帰四逆加呉茱萸生姜湯など
月経期から月経後の下腹部痛、頭痛 → 主に栄養不全	
じくじくした痛みが続く（虚痛） 月経後疲労感、易感冒	当帰芍薬散、十全大補湯、 人參養榮湯など